

コーティングとは

■コーティングとは

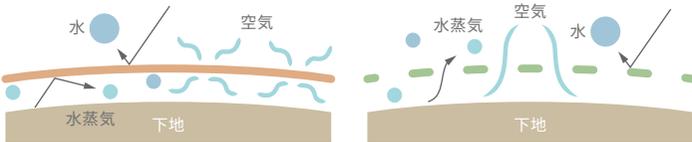
コーティングとは、汚れの元になる物質や目に見えない細菌などの付着物をつきにくくしたり、付着物が取れやすくすることで、その後のメンテナンスを行いやすくし、モノを綺麗に長持ちさせることを目指す加工です。

辞書では、「物体表面を、定着可能な物質で覆うこと」と説明されています。

■塗装とコーティングの違い

似たものに塗装がありますが、塗装は、膜厚があり、見た目や風合いが仕上げ側の塗装に変化するものです。

一方でコーティングは、膜厚がなく、見た目や風合いがあまり変化せず、素材側の状態を維持するものです。



塗装

- ・膜で覆うことで、防水が可能
- ・基本、水蒸気や空気を通さない
- ・膜厚があるので、見た目が変わる
- ・外壁や車で活用

コーティング

- ・水を弾くが、押し込むと入る
- ・水蒸気や空気は通す
- ・膜厚がないので、見た目が変わらない
- ・インテリアやファッションで活用

■コーティングの種類

加工する素材によって、大きく分けて、含浸タイプと皮膜タイプがあります。

含浸タイプは、ファブリックやラグ、無塗装の木材など、水分が染み込む繊維系素材に対する加工方法です。

皮膜タイプは、顔料仕上げのレザーやガラス、塗装仕上げの木材など、表面が平滑な非繊維系素材に対する加工方法です。ず、素材側の状態を維持するものです。

含浸タイプ

- ① 汚れが繊維の中に浸透することを防ぐ
- ② 皮膜が繊維を守り、耐摩耗性を向上
- ③ 皮膜に機能を添加し、必要な機能をプラス



- ・ファブリック
- ・ラグ
- ・カーペット
- ・無塗装の木材
- ・和紙
- ・スエードやヌバック等の起毛革 など

皮膜タイプ

- ① 汚れが付きにくく、取れやすくする
- ② 皮膜で覆うことで、耐摩耗性を向上
- ③ 皮膜に機能を添加し、必要な機能をプラス



- ・スムーズレザー
- ・ガラス
- ・金属
- ・塗装仕上げの木材 など

■ONE COATINGの特徴

コーティングを、自社による研究開発で発展させ、必要とされる技術、サービスとして体系化させたものが「ONE COATING」です。

これまでのコーティングや機能性素材にはない、以下のような特徴があります。

- ① 撥水以外にも多彩な機能をプラス
- ② 日本国内のエビデンスを取得し、品質が見える化
- ③ ファブリック、レザー、合成皮革、石、木など様々な素材に加工が可能
- ④ 見た目や風合いの変化がほとんどない
- ⑤ 抗菌・抗ウイルスのSIAAマーク認証などを取得
- ⑥ 生地などの素材だけでなく、完成品にも加工できる
- ⑦ 工場、物流過程、現地など、加工場所を選ばない
- ⑧ 必要なタイミングで再加工が行える持続可能な技術

現在、ホテルやオフィス、店舗や空港など、不特定多数の人が使う施設で、空間やモノを綺麗に長持ちさせる技術として活用されています。

また、家具・インテリア用品の他、ファッションや車、電化製品、伝統工芸など、幅広い業界で採用されています。